

ピアノとお話で巡るクラシックコンサート

田尻洋一の



ととんとん

ベートーヴェン

たかのぼら発 明日へ輝くコンサート

vol.6 Part 1

2017年11月19日(日)

開演14:00 (開場13:30)

奈良市北部会館市民文化ホール

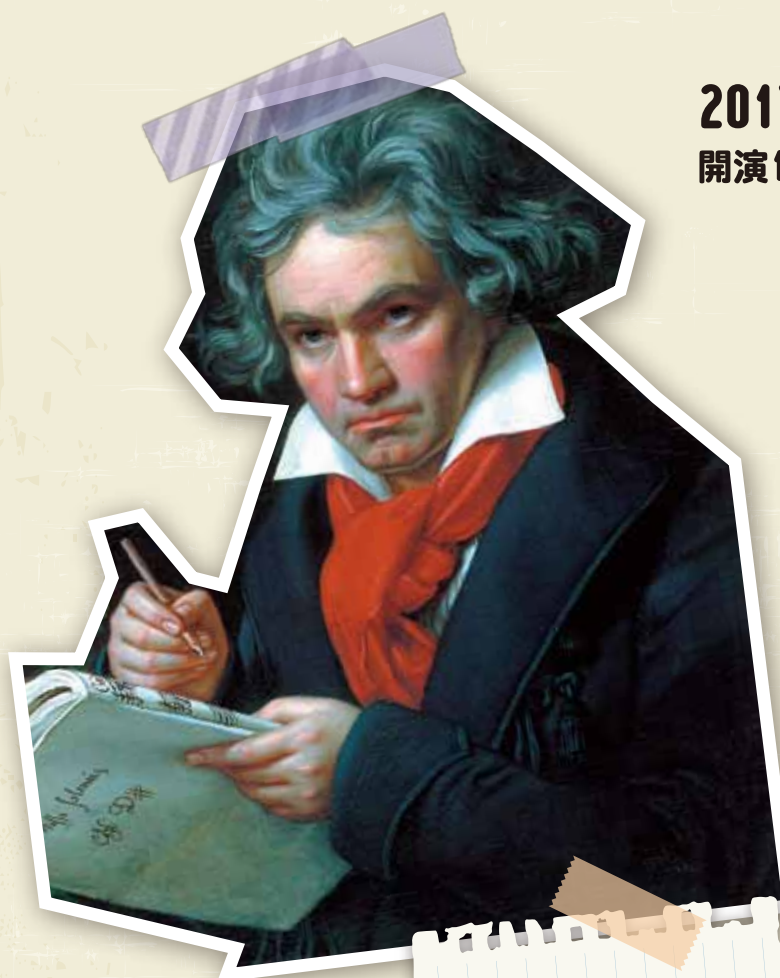
(近鉄高の原駅南へ徒歩3分)

交響曲9曲全て、ピアノで弾けるとは!!!

今回はベト7の愛称でも知られる交響曲第7番!

明日への希望に心膨らむ傑作を

田尻洋一が圧巻の演奏でお送りします。



演奏曲目

月光ソナタ

交響曲第七番



チケット：一般 ¥2,000 (当日 ¥500増) ※未就学児入場不可  
高校生以下 ¥1,000

【チケット発売開始日】 9月9日(土)

【チケット発売場所】 奈良市北部会館市民文化ホール  
ローソンチケット(☎0570-084-005/Lコード 00000)

【主催・お問い合わせ】 一般財団法人奈良市総合財団 奈良市北部会館市民文化ホール  
☎0742-71-5747 (月曜休館)

乞うご期待!!

Part 2 ピアノとお話で巡るクラシックコンサート  
「田尻洋一のもっともっとベートーヴェン」

2018年3月18日(日) 14時

交響曲第5番「運命」、熱情ソナタ

Part 1 ピアノお話を巡るクラシックコンサート  
「田尻洋一のとことんベートーヴェン」

Ludwig Van Beethoven × Yasuji Tsuji

ベートーヴェン プロフィール

1770年、現在のボン（ドイツ）生まれ。宮廷歌手だった父は大酒飲みで収入が少なく、その才能を当てにされ、4歳頃から虐待に近い音楽のスパルタ教育を受ける。  
1782年からクリスティアン・ゴットロープ・ネーフェに師事。16歳の時にウィーンを訪れ、モーツァルトに弟子入りを申し入れるが、母の病状悪化の報を受けて帰郷。母はまもなく死亡。その後は、父に代わり家計を支え生活に追われた。1792年、ハイデンに才能を認められて弟子入りを許可され、ウィーンへ移住。ピアノの即興演奏の名手として名声を得る。  
20代後半から持病の難聴が徐々に悪化、26歳で中途失聴者となる。その絶望感から、自殺も考える。しかし、この苦悩を乗り越え、その後10年間にわたって中期を代表する傑作を生み出す。  
40代に入ると、難聴がさらに悪化、晩年の10年はほぼ聞こえない状態になる。苦悩の中でも大作を書き続けたが、1827年、肝硬変により56年の生涯を終えた。

大人はもちろん、中高生のみなさん！

ベートーヴェンの魂に触れてください！！

【月光ソナタ】 1801年～1802年 32歳～33歳  
【交響曲第7番】 1811年～1812年 42歳～43歳

難聴、自殺を考えるほどの絶望感から這い上がり、自らの力で心の歓喜に至るまでの本物の作品は、聴くものを圧倒させます。今回、田尻洋一の指先からどんなベートーヴェンが紡ぎだされるのだろうか。

ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

×

田尻洋一

×

鑑賞のお客さま

一期一会の心のコラボレーション！

ぜひ、お越しください。

田尻洋一 プロフィール

神戸生まれ。桐朋学園大学卒業後、渡欧して天オイディル・ピレット女史などから優れた影響を受ける。古典ロマン派作曲家作品の全曲演奏という世界でも類を見ない偉業を成し遂げる一方、交響曲「運命」など管弦楽曲のオリジナルソロ編曲版も次々と演奏するなど、新たなジャンルも確立している。また、味わい深い楽しいトークはクラシックファンの裾野を広げている。  
伊丹や明石でのトーク＆ピアノコンサートは74回、100回とすっげえ数のロングランである。音楽に対する深い造詣、膨大なレパートリーに培われた年間30プログラム以上のコンサート、そして心底から感動を沸き立たせる演奏・・・オンリーワンの魅力である。



7月23日に開催された明石での田尻洋一ピアノリサイタル vol.99 終了後の出口調査をしてみました！

お話が体に入ってくる、それ以上に演奏が入ってくる

表情が素晴らしい

彼こそ本物の天才。そしてたゆまぬ努力家、努力だけでは光らない、才能だけでは続かない・・・田尻洋一はそんな人

天才でありながら常識人

生きていてよかったと思うピアノ

華麗なテクニック、心に響く、絵が浮かぶ、そして涙が滲んでくる。

<http://www.eonet.ne.jp/~y-tajiri/>

ピアニスト 田尻洋一

検索